

群馬県議会 リベラル群馬

街頭演説
2300日

2016年6月 議会報告書

後藤かつみ

発行	リベラル群馬 後藤かつみ事務所	http://www.ccrgoto.com/
住所	高崎市八幡町 800-24	
TEL&FAX	027-343-1393	
e-mail	ccrgoto@af.wakwak.com	

「普通の市民」の良識と常識が通じない今、 「民主主義の危機」に、立ち向かい続ける

**参院選が示したこと
静かに、そして着実に迫る
「民主主義の危機」**

7月10日の参院選の結果、そして「低投票率」に後藤は強い危機感を抱いています。リベラル群馬も、投票率向上を重要課題として取り上げ、県・市町村も一定の取り組みを行ってきましたが、成果は殆どなかったと言わざるを得ません。

国民の半数が無自覚の中、「改憲勢力2/3確保」というかつてない民主主義の危機が静かに迫っています。

**本当の危機は、国民の多くが
「危機」に気付いていないこと**

そもそも我が国では、政治に関心をもたなくてもそれなりに豊かで安全な生活を享受できる時代が長く続いてきました。これは、バランスを重んじたかつての自民党政治の功績です。

ただ、その自民党も安倍政権以降、変質が加速し、格差拡大、安保法制の強行など、これまで「当たり前」であった豊かさや安全な暮らしを脅かす政治を進めています。

しかし、本当の危機は、多くの国民が「自分の問題」として気付いていないことにあります。

選択肢を粘り強く示し続ける

今回の低投票率の要因として、テレビ報道が質量ともに後退したことが挙げられます。安倍政権以降エスカレートする「公平中立」圧力が、メディアの委縮・忖度を加速させていることは多くの識者が指摘しており、自民党が「やりすぎ」なのは間違いありません。

しかし、それを嘆いていても始まりません。ならば、国会内で「やりすぎを許さない」勢力を育て、当たり前に政権交代が日常化する健全な政治という選択肢を粘り強く示し続けるしかありません。

**必ず来る反動を
「過性に終わらせないために」**

一方で後藤は、「驕れるもの久しからず」は歴史の必定であり、今の状況が長く続くことない確信しています。さらに、多くの批判や矛盾を力で抑え込むほど、その反動は極めて大きいです。

問題は、その反動を、かつての民主党政権のよいうな形で「過性に終わらせず」、「選択肢」のある健全な民主主義を今度こそ確立できるかどうかです。

そのために、私たちは過去の失敗を活かし、アベ政治とは違う、「普通の市民」の良識に立った政治の軸をブレずに示し続けることが必要です。

また、今回の参院選で、選挙と音楽を融合させるなど従来にない選挙戦を進めたのは、若者を中心に「国民の半数が無自覚」という現状を本気で変えなければならぬという危機感からです。

「政治＝特別な世界」というイメージを良い意味で壊しつつ、「政治を変えなければ、君たちの未来も変わらない」というメッセージを旧弊に囚われず発信し続けていく所存です。



旧弊にとらわれないスタイルで、
政治に関わることの大切さを訴える。